

平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立城南中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることやこれらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成30年4月17日(火)

■ 調査の対象学年

中学校3年生

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、数学A、理科〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、数学B、理科〕
<ul style="list-style-type: none">身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

■ 調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は中学3年生及び小学6年生と限られた学年が対象であり、教科は国語、数学(算数)と理科に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

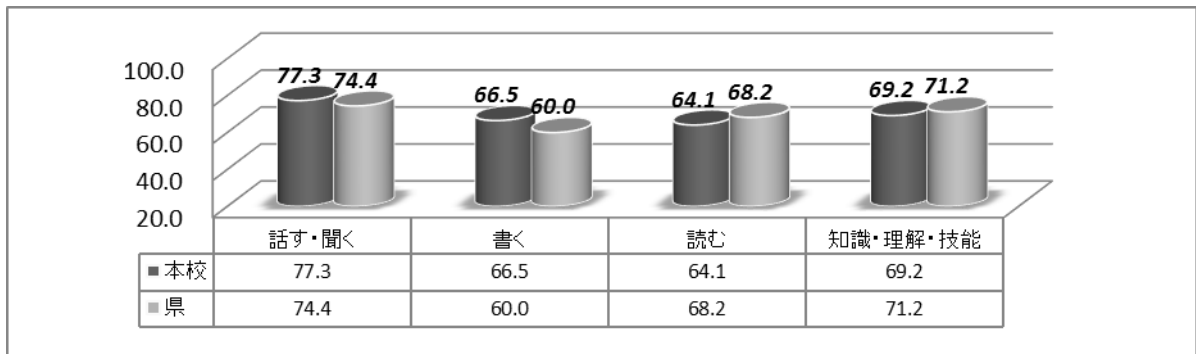
◆ 1・2年生の学習状況調査について

1・2年生については、3年生の全国学力・学習状況調査に併せて佐賀県小・中学校学習状況調査を実施しましたので、その結果を掲載しています。

■調査結果及び考察

国語（1年）

(1) 結果



- 「読むこと」「知識・理解・技能」の領域において県平均を下回っている。
- 文章を正確に読み取ることを苦手とし、内容ごとのまとまりを意識して文章を読むことができていない。
- 「話す・聞く」「書く」は、おおむね達成を超えており、今後は基盤となる「知識・理解・技能」の力をまず身につけさせ、他の領域の基本となる力の向上につなげたい。

(2) 考察、課題と学校での取り組み

話すこと・聞くこと <i>（目的や場面に応じて、筋道を立てて話したり聞き取ったりする力）</i>	
考察	・目的の意図に応じて、工夫して話すことができている。
課題	・話の組み立てを意識して話すこと、相手の意図を意識して聞くこと。
対策	・授業で得た技術(接続表現や話の組み立て方)を使って自分で文章を書く。 ・短い時間(内容)のスピーチや話し合い活動または互いに質問や説明を行うなど、主体的に話したり聞いたりする経験を積み重ねる。
書くこと <i>（相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章に書く力）</i>	
考察	・活用問題など条件に合わせて書くことには、やや苦手意識をもっているようであるが、おおむね達成できている。
課題	・条件に合わせて文章を書くこと。 ・文章を書くという経験を数多く積むこと。
対策	・問題に対して、正しく理解し、目的にあった内容をきちんと表現できるようにする機会を数多く設ける。
読むこと <i>（目的に応じて様々な文章を読み取ったり、読書に親しんだりする力）</i>	
考察	・読むことには大きな抵抗もなく取り組んでいるが、文章の内容を的確に押さえることができていない。
課題	・話の展開に注意して読み、内容を整理し話の主題について考えること。
対策	・形式段落、意味段落ごとの内容整理できるようにしていく。
伝統的な言語文化と特質に関する事項 <i>（音声、語句・語彙、文法、文字を正しく整えて書く力）</i>	
考察	・文脈に合わせた言葉の使い方が適切でなく、知識が定着していない。
課題	・文脈の中で適切に言葉をつかう語彙力と漢字の知識を育成する必要がある。
対策	・継続的な漢字学習と漢字をきちんと使った文章を書くようにしていく。

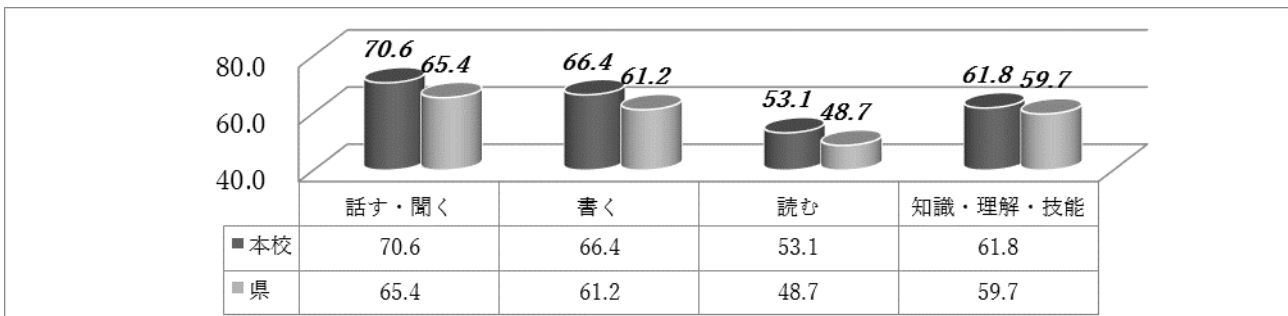
ご家庭へのお願い

- ① 文章を読むことで要点や話者の意図をとらえられるようになり、子どもたちにとって大切な読解力につながります。新聞やニュースの内容、学校での出来事などを話題に、できるだけご家庭で会話する機会をつくっていただきたいと思います。
- ② 日記を書くことや時間を決めて短時間の読書をすることによって、文章を書く力や知識、国語に関する理解力が高まると思われます。

■調査結果及び考察

国語（2年）

(1) 結果



- すべての項目において、県の結果を上回っている。
- 昨年度の課題であった、「話す・聞く」「読むこと」が改善されている。
- 「読むこと」「知識・理解・技能」の領域では、おおむね達成を超えているが、十分達成には10ポイント以上の開きがある。

(2) 考察、課題と学校での取り組み

話すこと・聞くこと （目的や場面に応じて、筋道を立てて話したり聞き取ったりする力）	
考察	・基本的な内容は全般的に良くできているが、まだ活用力が弱い。昨年度に比べ、大きく改善した。
課題	・話し合いの内容を正確に捉えながら、自分の考えをまとめ、目的に応じた話し方や聞き方を工夫すること。
対策	・結論（意見）に対して論拠を明らかにするだけでなく、理由付けをきちんと行い、相手によりの確に伝わるように心がけさせる。学び合いで伝え合う力を育てること。
書くこと （相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章に書く力）	
考察	・書くことに対して苦手意識をもつ生徒が多いようであるが、おおむね達成の状況である。
課題	・目的に応じ自分の考えが的確に書くことができるとともに、場面に応じた文章表現ができるようにする。
対策	・課題に対して、適切な材料を集め、主体的に考察する場を作る。話し合いの場を設定し、意見の交流を通して改善させていく。
読むこと （目的に応じて様々な文章を読み取ったり、読書に親しんだりする力）	
考察	・読むことには抵抗なく取り組むことができる生徒が多いが、根拠や主張を正しくよみとるところにまでは至っていない。
課題	・読み取りやすい文章から段階的に取り組む手立てをとるなど、読むことに抵抗がある生徒の底上げが必要である。
対策	・朝の読書活動を継続して行う。読むことの基礎となる、言語事項の指導の場を増やすことで文章を正しく読む力を育てていく。
伝統的な言語文化と特質に関する事項 （音声、語句・語彙、文法、文字を正しく整えて書く力）	
考察	・語句に関する知識はあるが、文脈に合わせた読み取りは十分ではない。
課題	・漢字学習をはじめ、文脈の中における語句に関する知識、理解を深める手立てをとること。
対策	・関心を持ちやすい題材を用意し、小テストをくり返すなどの指導を工夫する。家庭での反復学習のあり方などを考えさせ、生徒自身に応じた的確な学習法を身につけさせる。

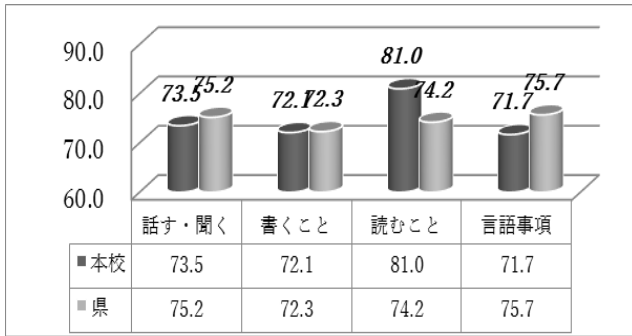
ご家庭へのお願い

- ① 漢字の書き取りを課題としています。毎日こつこつ書くように励ましてください。
- ② 新聞やニュースに触れる機会をつくり、子どもとの会話から、考えていることを聞く場面を増やしていただきたいと思います。新聞やニュースでの言葉を引用して会話できたときや、深く考えている思いが言葉になったときなどに、その確かな成長を承認していただけたらと思います。
- ③ 家庭での学習の習慣化のため、「時間・場所・もの」の確保にご協力ください。

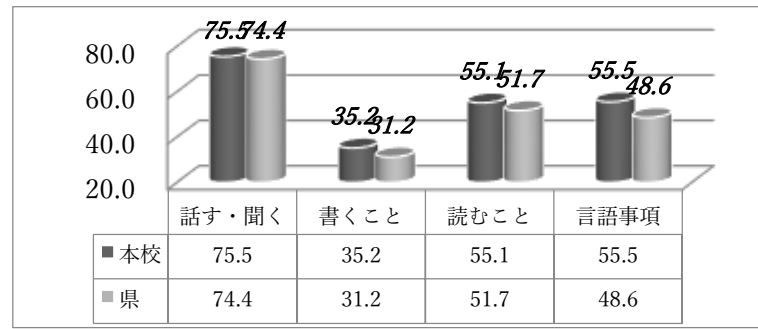
■調査結果及び考察

国語（3年）

(1) 結果 国語A（知識）



結果 国語B（活用）



- A問題では、「読むこと」以外は、全国・県を下回っている。「読むこと」は高い結果となっている。
- B問題では、ほぼすべての項目で、全国・県を上回っている。特に「言語事項」は高い結果となっている。
- B問題の記述式「書く」問題での正答率が、全国・県を上回っている。

(2) 考察、課題と学校での取り組み

話すこと・聞くこと <i>（目的や場面に応じて、筋道を立てて話したり聞き取ったりする力）</i>	
考察	・国語に限らず、授業や学校生活の中で「話し合い」「学び合い」を習慣的に行うことで効果が出ている。
課題	・「質問の意図を捉える」ことが、やや苦手である。 ・「全体と部分の関係に注意して、相手の意図、相手の反応を踏まえながら話す」問題は県や全国を上回ってはいるが、正答率は低い。
対策	・話し合いや、学び合いを通して、相手の意図、相手の反応などを正しく受け止め、自分の考えを話す学習を行う。
書くこと <i>（相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章に書く力）</i>	
考察	・全国・県を上回っている。「学び合い」の中で、書く力がついていると思われる。
課題	・「目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く」問題の正答率が低い。 ・「相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く」問題は、半数以上が正答してはいるが、無回答率が高い。
対策	・授業の中で、自分で内容を整理して書いたり、あらすじを書いたりする場面を設定し、目的に応じて適切に書く力をつける。
読むこと <i>（目的に応じて様々な文章を読み取ったり、読書に親しんだりする力）</i>	
考察	・A問題もB問題も「読むこと」は全国・県ともに上回っている。 ・朝読書で読書の習慣がついており、文章を読むことへの抵抗は少ない。
課題	・説明的な文章では「文章の構成や展開について自分の考えを持つ」こと、文学的な文章では「登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てる」ことが、やや下回っている。
対策	・授業の中で、文章の構成や展開に対して、視点を与えながら自分の気づきや考えをもたせる。
言語事項 <i>（音声、語句・語彙、文法、文字を正しく整えて書く力）</i>	
考察	・A問題の言語の問題は、全国・県ともに下回っている。
課題	・特に、「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」こと、「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む」ことはかなり下回っている。
対策	・授業や課題を通して、ことわざ、慣用句などを含め、語彙を増やしていく。 ・古文の基礎である仮名遣いの問題をくり返ささせて、身につけさせる。

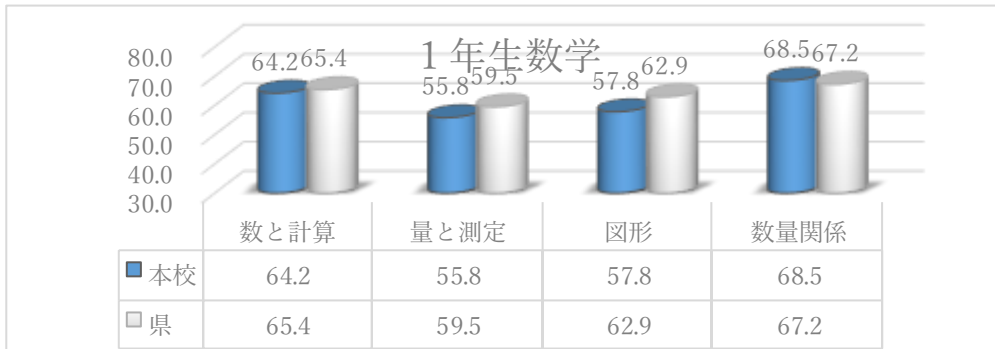
ご家庭へのお願い

- ①漢字の書き取りを課題としています。毎日こつこつ書いていくように励ましてください。
- ② 様々な文章に触れることが肝要です。読書、新聞など文章を読ませたり、読んだ後の感想を聞いたりしていただくことで、言葉も増え、考えを言葉にできるようになると思います。

■調査結果及び考察

数学（1年）

(1) 結果



- ・「数量関係」の領域では、県平均正答率をやや上回っているが、「数と計算・量と測定・図形」の領域では、県の正答率よりも下回っている。特に「量と測定、図形」の領域では、「おおむね達成」の到達基準を下回っている。
- ・全ての設問において無回答率が低いため、意欲的に設問に取り組んでいると言える。

(2) 考察、課題と学校での取り組み

数と計算 (小数・整数・分数の混じった計算、分数のかけ算とわり算、文字と式など)	
考察	・基本的な計算問題は正答率が高い。 ・分数や小数の計算を苦手としている。
課題	・計算の意味を理解し、基礎・基本の計算力を身に付けること。
対策	・すすすくテストで基本的な計算練習を繰り返し実施する。
量と測定 (図形の面積、速さ、量と単位など)	
考察	・速さの問題や、単位量当たりの大きさに着目して考える問題を苦手としている。
課題	・日常生活や社会の問題を数理的に捉えること。
対策	・公式の暗記ではなく、公式の意味を理解させる。
図形 (点・線対称の図形、縮図、円周の長さなど)	
考察	・点対称や線対称な図形について、多くの生徒がよく理解できている。
課題	・図形の中の関係を式に表したり、数学的に説明したりする問題を苦手としている。
対策	・数学的活動や言語活動を授業の中に取り入れる。
数量関係 (比、比例と反比例、並べ方と組み合わせ方など)	
考察	・比例の問題や、柱状グラフを読み取る問題について、多くの生徒が理解できている。
課題	・示された情報を解釈し、その根拠を言葉や式を用いて説明する問題を苦手としている。
対策	・数学的な表現を用いて筋道を立てて説明し伝え合う活動を取り入れる。

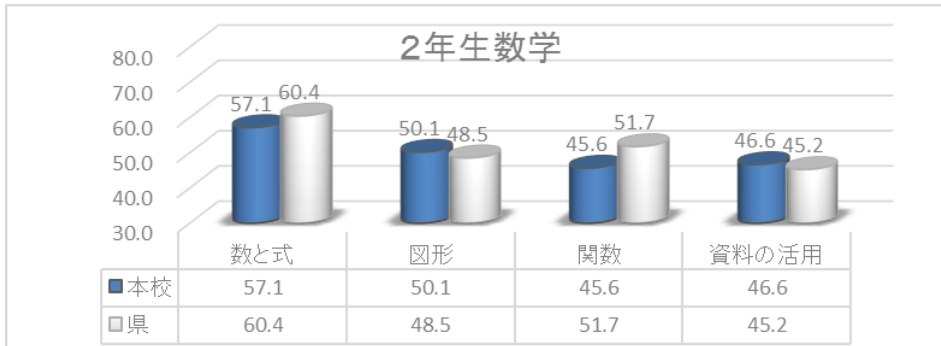
ご家庭へのお願い

- ・授業で取り扱った内容を、自学ノートや問題集などを活用して定着させるように励ましてください。
- ・日常生活のさまざまな場面で課題を発見し、数学を使って解決する機会をつくっていただきたいと思っております。

■調査結果及び考察

数学（2年）

(1) 結果



- ・「図形」、「資料の活用」の領域では、県平均正答率を上回っている。「数と式」、「関数」の領域では、県の正答率よりも下回っている。
- ・ほとんどの設問においての無回答率が県の無回答率より低いいため、意欲的に設問に取り組んでいると言える。
- ・「数と式」の領域は、おおむね達成を少し上回っている状況であるが、他の領域はおおむね達成を下回っている。

(2) 考察、課題と学校での取り組み

数と式 （小数・整数・分数の混じった計算、分数のかけ算とわり算、文字と式など）	
考察	・基本的な計算問題は正答率が高い。
課題	・分数を含む一元一次方程式解く問題を苦手としている。 ・事柄が成り立つ理由を説明する問題を苦手としている。
対策	・定期的な小テスト、すすくテストを実施する。 ・説明する授業を取り入れる。
図形 （平面図形、空間図形、おうぎ形の弧の長さや面積など）	
考察	・空間におけるねじれの位置の関係を見つける問題を多くの生徒が理解している。
課題	・図形の中の長さや体積を求める基本的な問題を苦手とする生徒が多い。
対策	・ワークやすすくテストにおいて繰り返し学習する。
関数 （比例と反比例など）	
考察	・関係を表に表すことができている生徒が多い。
課題	・関係をグラフに表す問題やグラフと表を関連付けて理解する問題を苦手としている。
対策	・グラフの意味を理解し、式と表とグラフを関連付けて考える授業を行う。
資料の活用 （度数分布表、ヒストグラムなど）	
考察	・ヒストグラムから度数を読み取る問題は多くの生徒が理解できている。
課題	・代表値を基に、資料の傾向を捉え、数学的な表現を用いて説明する問題を苦手としている。
対策	・説明する授業を取り入れる。

ご家庭へのお願い

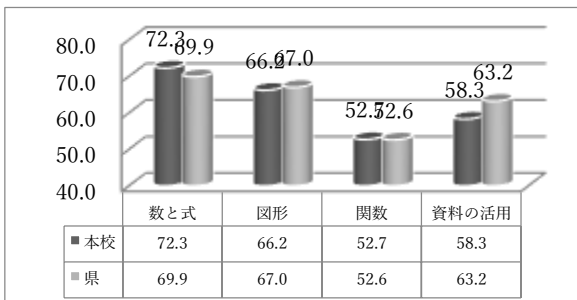
- ・授業で取り扱った内容を、再度、家庭で取り組んでいただきたいと思います。
 - ・日常生活の場面で、数学的な課題を見つけ、楽しみをもって一緒に考える機会をつくっていただきたいと思います。
- （建造物や物体から形の名称・面積・体積、時刻表から電車の平均の速さなど）

■調査結果及び考察

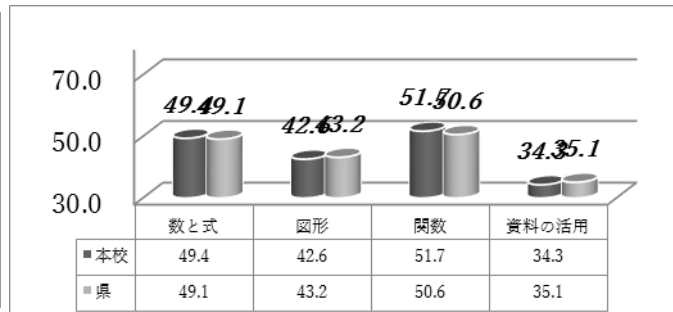
数学（3年）

(1) 結果

数学 A



数学 B



- ・数学Aの「数と式」、数学Bの「数と式」「関数」では県の平均を上回っている。しかし、「資料の活用」の領域では、「おおむね達成」の到達基準を下回っている。
- ・全体的に無回答率が高く、特に記述式の問題形式の無回答率が高い。

(2) 考察、課題と学校での取り組み

数と式 (小数・整数・分数の混じった計算、分数のかけ算とわり算、文字と式など)	
考察	・基本的な計算問題は正答率が高い。
課題	・数量の関係を数学的な表現を用いて説明する問題を苦手としている。
対策	・小テストやすすくテストの中で、説明する問題を取り入れる。
図形 (平面図形、空間図形、おうぎ形の弧の長さや面積など)	
考察	・図形の基本的な知識については理解できている生徒が多い。
課題	・図形の関係を証明する問題を苦手としている。
対策	・すすくテストやワークを活用し、繰り返し学習を行う。
関数 (比例と反比例、一次関数など)	
考察	・与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができている。
課題	・変域や増加量を求めたり、関数の関係を数学的に説明したりする問題を苦手としている生徒が多い。
対策	・活用の問題を授業の中に取り入れる。
資料の活用 (度数分布表、ヒストグラム、確率など)	
考察	・中央値を求める問題は正答率が高い。
課題	・与えられた情報を分類、整理し、確率を求める問題を苦手としている。
対策	・日常生活の場面における確率の問題を授業の中に取り入れる。

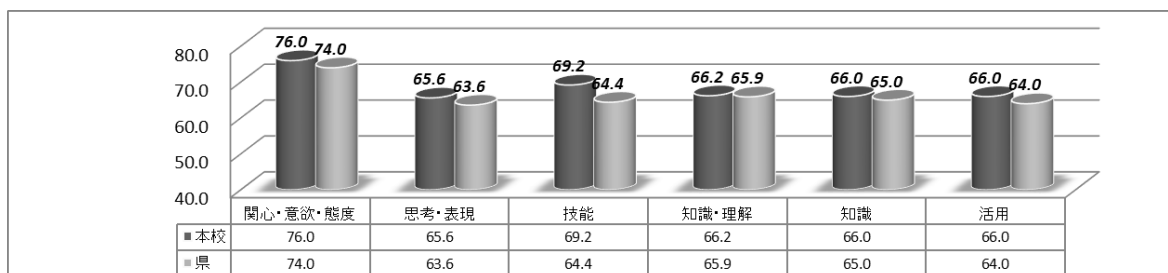
ご家庭へのお願い

- ・授業で取り扱った内容を、ワークや自学ノートを活用して家庭で復習をするように励ましてください。
- ・日常生活の場面で、数学的な課題を見つけ、楽しみをもって一緒に考えていただきたいと思います。

(様々な建造物や物体から形の名称・面積・体積、時刻表から電車の平均の速さなど)

理科(3年)

(1) 結果



- ・内容・領域別正答率ではエネルギー(物理)、生命(生物)・地球(地学)・物質(化学)の全ての領域では県平均を上回っている。
- ・知識と活用について、ともに県平均を上回っている。
- ・「学び合い」により、生徒が主体的に活動しており、学習目標を全員が達成できるように工夫をしていくことで、学力の向上にもつながっていると考えられる。

(2) 考察、課題と学校での取り組み

自然現象への関心・意欲・態度	
考察	・理科の授業は好きだと答える生徒の割合が県平均に比べ大幅に高い。
課題	・調べる対象と理由を明確にして、学習に取り組めるようにしていく。
対策	・自分で調べる方法を確認し、結果を考察することなど自主的に学習する場をつくる。
科学的な思考・表現	
考察	・県の平均より高く、おおむね達成ができています。
課題	・実験、観察の結果を表やグラフにまとめ、考察を深めることができるようにする。
対策	・表やグラフへのまとめ方など、データ処理について指導を行う。
実験・観察の技能	
考察	・実験に関する用具の扱い方について、理解ができています。
課題	・実験や観察の場に応じて、器具を適切に扱うことができるようにする。
対策	・実験、観察の計画時から、使用する器具を準備し、手順について確認を行う。
自然事象についての知識・理解	
考察	・県平均を上回っているが、記述については十分とは言えない。
課題	・領域別に必要な知識を整理し、総合的な理解につなげる必要がある。
対策	・日頃から、科学的な事象について、説明するなどの取組により理解を深めていく。

ご家庭へのお願い

- ・子どもが理学的なことに興味・関心を持ったときに、理解を示したりする大人や家族がいることは、理科好きな子に育つことにつながります。
- ・科学や自然について疑問を持ち、その疑問を大切にしてほしいと思います。

生活習慣や学習習慣に関する調査

■結果 ※ 斜線の部分については今回調査がなかった項目です。

① 生活習慣について	1年生		2年生		3年生	
	本校(%)	県(%)	本校(%)	県(%)	本校(%)	県(%)
朝食を毎日食べている(「どちらかといえば、してる」を含む)	91.1	94.4	92.7	92.7	93.5	93.3
普段、11時には寝ている(毎日、同じ時間に寝ている)	72.2	78.0	43.4	52.0	76.7	77.4
毎日同じ時刻に起きている(「どちらかといえば、してる」を含む)					92.8	92.3
平日2時間以上テレビを見る	58.9	56.4	53.7	52.2		
平日2時間以上ゲームをする	27.8	27.6	40.4	29.5		
平日2時間以上通話やメール、インターネットをする	24.0	17.8	30.1	25.6		
平日読書を30分以上している	42.4	38.0	32.4	36.0		
学校図書館や地域の図書館を全く利用しない	33.8	31.5	47.8	36.9		
新聞を読んでいる					25.9	34.6
地域の行事に参加している	51.6	70.5	40.5	57.6	26.0	48.2
新聞やテレビ、インターネットでニュースを見るか	93.0	90.2	90.4	90.5	96.2	95.1

■考察

≪ 1年生 ≫

【実態】

- ・「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムは概ねできていると言える。
- ・地域行事の参加については、半数は参加しているが、県平均と比べると20%以上低い。
- ・ゲームについては、長時間している生徒があるが、県の平均と同じくらいである。
- ・読書については、30分以上読書をしている生徒が県平均よりも若干高い。
- ・多くの生徒がテレビやインターネットでニュースを見ている。インターネットの利用はやや多い。

【対応】

- ・地域行事への積極的な参加・協力を促すよう、呼びかけを行っていく。地域のボランティア活動にも積極的に参加できる工夫を行う。
- ・テレビやゲーム、就寝時間についての見直しを行い、ルール等について啓発を行っていく。
- ・朝読書や読み語りの時間の充実等を行い、本に親しむ時間が家庭でもとれるように、読書習慣をさらに身につけさせる。

≪ 2年生 ≫

【実態】

- ・朝食をきちんと食べている生徒の割合が多い。
- ・就寝時間が遅くなっている生徒の割合が多い。
- ・2時間以上ゲームをしている生徒が多くあり、県平均と較しても高い。
- ・図書館を利用する生徒が減少傾向にある。

【対応】

- ・スマートフォン、携帯の使い方、利用時間、情報モラルなど利用方法やマナー等について十分な指導を行い、就寝時間等も含め望ましい生活習慣の確立につなげる。
- ・読み語りなど読書活動につながる工夫を続けていく、が多い。引き続き朝読書を徹底し、読書習慣の向上を図っていく。

≪ 3年生 ≫

【実態】

- ・食事や起床、就寝まで規則正しい生活が送れている生徒が多い。
- ・1日当たりテレビを2時間以上みたりする生徒が40%いるが、学年別では減少している。
- ・地域の行事に参加する生徒の割合が県平均の約半分と、大変低い数字になっている。

【対応】

- ・地域でのボランティア活動について情報を発信し、生徒の関心を高めていく。

家庭学習に関する調査

■結果

② 家庭学習の様子	1年生		2年生		3年生	
	本校(%)	県(%)	本校(%)	県(%)	本校(%)	県(%)
	調査項目					
平日2時間以上勉強している(塾・家庭教師を含む)	28.5	21.8	30.1	25.6		
学習塾(家庭教師)で勉強している	45.6	35.5	50.0	41.4		
自分で計画を立てて勉強している(「どちらかといえば、してる」を含む)	68.6	67.5	64.0	56.0	49.4	51.5
家で、学校の宿題をしている(「どちらかといえば、してる」を含む)	96.8	96.3	96.4	93.5	98.1	98.8
家で授業の予習をしている	67.7	52.2	97.2	81.2	89.6	86.8
家で授業の復習をしている	63.9	63.8	92.7	89.3	89.6	86.8

■考察

《1年生》

【実態】

- ・本校は県平均に比べ、予習、復習などの家庭学習に取り組んでいる生徒は多い。計画的に学習している状況もうかがえる。
- ・勉強時間がやや増加している傾向があるが、2時間以上の学習時間の確保を求めていきたい。予習、復習の習慣が身についている。内容を深めて、継続できるようにしていく。

【対応】

- ・学習の仕方が分からない生徒もいると思われるため、補充学習の時間の設定や自主学習を進める方法の指導を行う。
- ・進学指導やキャリア教育について考えさせる機会を設定し、学習に対する意識を高める。
- ・自己肯定感をもって自己実現を果たしていけるよう支援する。

《2年生》

【実態】

- ・2時間以上の勉強時間をとれている生徒が、県平均より高い。今後は、更に学習への取り組み方を工夫させていく。
- ・宿題や予習復習等の時間がきちんととれている。与えられた課題はこなしている生徒が半数ほどである。

【対応】

- ・生徒が自分に必要な学習について計画、実行する家庭学習の充実や工夫に向けて、家庭と学校の連携を図っていく。
- ・将来への展望を考えた学習ができるよう、進学指導やキャリア教育をすすめていく。

《3年生》

【実態】

- ・家庭学習の習慣がきちんと身につく、計画的に予習、復習ができている生徒の割合が高く、宿題についてもきちんと提出する習慣ができている。
- ・家庭において、計画的に学習する習慣は十分ではない。

【対応】

- ・進路指導やキャリア教育を充実させ、学習時間の確保についての意識づけを行う。
- ・より自主的、効率的に学習に取り組めるような指導方法、内容の改善を図る。
- ・将来の進路について、家庭と学校で情報交換を密に行い、夢や目標、自分を大切にすることを育てていく。

心の内面の様子

■結果

③ 心の内面の様子	1年生		2年生		3年生	
	本校(%)	県(%)	本校(%)	県(%)	本校(%)	県(%)
	調査項目					
学校に行くのは楽しい(「どちらかといえば、そう思う」を含む)	84.8	94.2	72.8	86.8		
先生はあなたの良いところを認めてくれている					75.9	81.2
社会で起きていることに興味がある					56.5	60.5
学校の規則を守っている					94.2	94.3
いじめはいけないことだと思う					94.2	96.3
人の役に立つ人間になりたい(「どちらかといえば、そう思う」を含む)	95.5	96.8	91.9	95.1	97.4	95.8
将来の夢や目標を持っている(「どちらかといえば、あてはまる」を含む)	83.6	85.7	67.7	72.4	70.8	71.3

■考察

《1年生》

【実態】

- ・ 県平均よりは少ないが、学校に行くのは楽しいと思っている生徒は多い。
- ・ 「人の役に立つ人間になりたい」、「将来の夢や目標を持っている」の数値が高く、将来に対する展望を強くもっている生徒が多い。

【対応】

- ・ 中学校3年間の学習に見通しを持たせ、将来の夢や目標を意識させる。また、生徒が日々の授業や活動の意義を明確に伝え、中学校生活を充実したものにしていく。

《2年生》

【実態】

- ・ 学校に行くのは楽しいと思っている生徒の割合は高い数値であるが、やや下がっている。
- ・ 「人の役に立ちたい」と多くの生徒が思っている。しかし、夢や目標を持っている生徒については67%であり、意識は高いとはいえない。

【対応】

- ・ 進路指導やキャリア教育について、内容を充実させ、自己肯定感情を高める工夫を行い、生徒が将来の夢や具体的な目標を持つことができるようにしていく。

《3年生》

【実態】

- ・ 自己肯定感情は半数以上が良い状態にある。
- ・ 学校の規則を守ることにについては前向きである。
- ・ 「人の役に立ちたい」という気持ちは大多数の生徒がもっているが、具体的な将来の夢や目標をもっているという生徒の割合はあまり多くない。
- ・ 社会の出来事にはあまり興味は高くない。

【対応】

- ・ 学校行事などで生徒のよさを認め合うことやそれを発信し、学校や生徒に対してより多くの承認感を持たせる。
- ・ 学校行事等で生徒が活躍している様子を地域や保護者に発信し、生徒を承認するための連携を深めていく。
- ・ 進路学習、キャリア教育を充実させ、将来の夢や目標の実現に向け、何事にも主体的に取り組む態度を育む。
- ・ 生徒の進路実現に向けて、本人の意欲や希望を踏まえて、学校と家庭で情報交換など連携を深めていく。